

いたちかわらばん

通刊56号 鮒川・狹川 / 川原番・瓦版 '11 冬号



【版画 宗森英夫】

【長倉町小川アメニティ】

長倉町小川アメニティ

神奈中バス（大船く金沢八景）「長倉町」で降りると環状4号線の東側にこの絵の長倉町入口の橋とあずまやがあります。この歩道に沿って上流がいたち川の源流域の一つ長倉町小川アメニティです。このアメニティを管理する水辺愛護会には長倉町自治会の皆さんが参加して、快適なせせらぎ緑道にするため清掃や除草をしています。子どもたちが川で遊び親しめるように子ども環境学習イベントも毎年開催しています。長倉町は栄区の東南端に位置し、長倉山のふもとを切り崩し造成され、昭和四十五年から入居が始まりました。長倉山は昔の相模の国こ栄区にある山で、朝比奈はもと武蔵の国で金沢区にある地名なのです。当時の開発業者が「朝比奈台住宅地」と名付けて分譲したことから、いたち川にかかる橋が「朝比奈下橋（あさひなしたはし）」や「朝比奈台橋（あさひなだいはし）」となりました。

旧戸塚区からの分割で栄区ができた頃に住居表示の変更が行なわれ、由緒ある「長倉」の町名になりました。この地域に伝わる『長倉の池ものがたり』は小学生による絵のサイン板が作成され長倉町小川アメニティに展示されています。小さいけれど池は現在も山の中にあります。

桜／新緑／ホタル／紅葉など四季おりおり楽しめます。横浜自然観察の森へ、また鎌倉までの天園ハイキングへどうぞお出かけください。

（長倉町小川アメニティ愛護会事務局 佐藤信夫）

わくわく☆いたち川たんけんたい

横浜市立本郷台小学校2年1組

☆ 生活科 本郷台のまちをたんけんしよう

本郷台のまちについて、知っていることを子どもたちが話し合っているときに、「いたち川に行ってみよう！」という声がたくさんあがりました。いたち川は学区にありながら、意外にもこれまで川に下りて遊んだ経験をもつ子は少なく、「いたち川には、どんな生き物がいるのかな？」「遊びに行ってみよう。」と興味津々でした。

さっそく、いたち川に探検に行くと、そこにはいたち川 OTASUKE 隊の方々が生徒さんで、「あの魚はなんだろう？」「あの鳥は？」という子どもたちの疑問に、親切に答えてくださいました。さらに、川遊びをしようということになり、みんな大喜びでした。

☆ 楽しかった川遊び！

「いたち川でぼくはタニシの貝殻を見つけました。アメンボもみつけました。でもアメンボは泳ぐのが速くてつかまえられませんでした。」

「いたち川でモズクガニを見つけました。アカミミガメも見ました。ぼくはカメを飼ってるから簡単につかめました。楽しかったです。」

「ぼくは、いたち川で、でかいエビを見つけました。でもすぐ逃げてしまいました。いたち川はこんなにすごい生き物がいたんだなあ。」

「いたち川で楽しかったことは、メダカを10匹、金魚(注1)を10匹つかまえたことです。でもメダカが一匹逃げてわたしの足をつんつんつづくのでくすぐったかったです！めだかっておもしろいなあ。」(注1)ヒメメダカ

☆ 黒メダカを育てよう！

川遊びで見つけた生き物は持ち出さないことを学んだ子どもたちは、特別に、和久井さんと土木事務

所の方より、黒メダカを分けていただきました。子どもたちがいたち川の環境を意識して、メダカの住処を工夫して作り、大切に育てています。

「黒メダカをいっぱい育てて絶滅危惧種じゃなくして、みんなの人気者にしたい。」

「えさを少しずつあげて水もカルキ抜きをちゃんとしたら、タニシ(注2)の卵がありました。産まれるのが楽しみです。メダカはとんとんとわたしのほうに来ます。これからも育てるのをがんばります。メダカかわいいです！」

「黒ちゃんとメダくんがなかよしなことをしていました。なぜかという、黒ちゃんが動くとメダくんがついてくるからです。でも一番かわいいのは、黒ちゃんがパンくずをもぐもぐ食べているところです。」(注2)カワナ

☆ 自然は大切！

子どもたちは川遊びや黒メダカを育てることを通して、自然の大切さを学んでいます。今は、そこから発展して本郷台の自然たんけんを行っています。お世話になりました OTASUKE 隊のみなさん、土木事務所のみなさん、区役所のみなさん、どうもありがとうございました！



発行年月
2012年1月

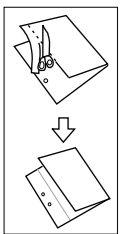
通刊56号

発行：狹川 OTASUKE 隊 (いたちがわおたすけたい)

OTASUKE 隊事務局：栄区役所区政推進課企画調整係 〒247-0005 横浜市栄区桂町303-19
TEL 045-894-8161 FAX 045-895-2260
栄土木事務所下水道・公園係 〒247-0007 横浜市栄区小管ケ谷1-6-1
TEL 045-895-1411 FAX 045-895-1421
(お便り・お問い合わせはこちらまで)

切り取り線

この部分を切り取ってファイルにすると便利です



金気が多いたち川源流

三浦半島北部の鉱泉（地下水を利用した沸かし風呂）では入浴に使ったタオルが赤く染まり鉄分の多さを物語っています。

この現象はいたち川の流域でも各所に見られます。鉄分を含んだ金気の多い源流をあげると次の箇所で見られます。

- ① 翠風荘下のいたち川源流は赤く淀んでいます。
- ② 矢沢堀の水車付近は川底の石や水車が赤く染まっています。
- ③ 昇龍橋下の湧水口は石が赤く染まっています。
- ④ 第百ゴルフ練習場から流出し紅葉橋下に流入する水路は赤く染まっています。
- ⑤ 荒井沢の流水の中には砂鉄がみられます。

【栄区の製鉄】

栄区内で昔、砂鉄、石灰岩、石炭（亜炭）が豊富に採れた記録があり、鎌倉時代以後は幕府が近くに開かれたことにより武器の製造が発達したと思われます。

現在でもいたち川源流部の水は褐色で鉄分が多く含まれています。石灰岩は昭和30年代まで採掘されていた記録があり、地名などに白山、城山等から石灰の山が存在したことがうかがえます。砂鉄を利用した⑥古代製鉄遺跡（たたら遺跡）を次のような箇所で見ることができます。

神奈中バス本郷車庫から県立栄高校へ登る坂道（舞岡上郷線）の途中の山の周辺には初期の製鉄遺跡（たたら遺跡）が群存することは遺物（鉄滓）の出土と炉の発掘などによって知られています。

【白山神社】

⑨鍛冶ヶ谷町で鍛冶が行われたことの手掛かりとして推定できることは、⑦白山神社（大和時代建立）の存在です。この社は現在、庄土住宅の山頂にあります。最初は山麓の白山橋の上流部分の昇龍橋を渡った所に鳥居の跡等が残っています（鎌倉時代移築）。その以前は鍛冶ヶ谷口にあったと言われています。

製鉄に従事した人たちが信仰したといわれる白山神社はこの地域には数カ所あり、「本郷のお寺とお宮」（本郷郷土史研究会）は次のように述べています。

「全国の白山神社の多くは移動遷座しており、それは鉱山や鍛冶職を営む人の白山信仰が根強いからで、その人々の移動について白山神社もまた移動したとみられ……」 「本郷の白山神社が鍛冶ヶ谷口に鎮座した平安末期は、本郷を支配した山内首藤氏が同時に支配していた陸奥国舞草（もうぐさ）から鍛冶工を本郷に移住させて鍛冶ヶ谷を構成させた時期にあたるという説があります」

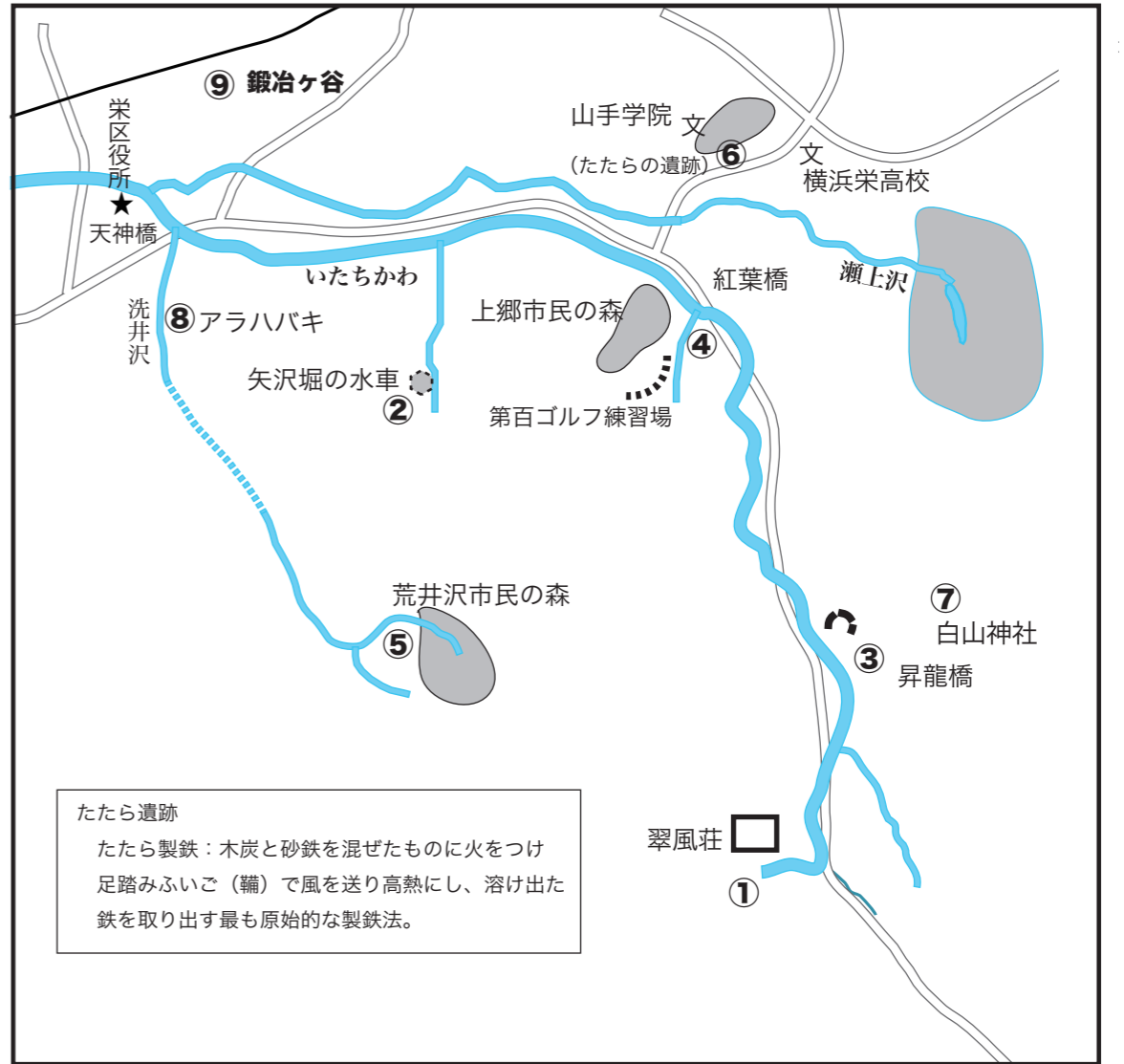
公田町にある洗井沢川せせらぎ緑道の途中にある「⑧アラハバキの祠」は当時の東北地方の地神様を陸奥国舞草（もうぐさ）の鍛冶工が信仰のために遷座したものと思われる。

【鎌倉武士の武具】

鎌倉市の由比ヶ浜～七里ヶ浜の海岸の砂浜は砂鉄を多く含み、相州鍛冶と称する職人が相州正宗などを造り出しました。

栄区の鍛冶ヶ谷町も、定説はないが、鍛冶ヶ谷という地名は鍛冶という職業と何らかの関係があると考えられます。

（いもり）、（ミジンコ）



● おんやわら ●

前号の「いたち川と災害」の記事について、読者の方から、いたち川では洪水が起こらないという表現は「少々楽観的ではないか」とのご指摘をいただきました。

記事の内容は、「河川の容量と調整地の関係を理解していただきたい」という意味で書いたもので、実際には災害は起きていませんが、ご指摘のように天災では我々が考えつかない事が起こります。横浜市では、河川が氾濫した場合に皆さんが速やかに避難できるよう「洪水ハザードマップ」を作成し、まさかの時に備えております。

こうした皆様からの御意見、御指導をもとに、より良い「いたちかわらばん」づくりを行っていきたくと考えております。今後とも御愛読いただきますよう、お願いいたします。

富士山展望（その一）

晩秋から冬になると空気が澄んできます。これまで、もやっていた丹沢山地の稜線がはっきりと見えるようになり、雄大な富士山の存在感が一段と増します。

栄区は分水嶺の西側に開けていることから富士・箱根山地・丹沢山地が望める良い位置にあり、丹海山地の遊歩道の至る所から望むことが可能ですが、実際には目の前の樹木が邪魔しているため展望のよい場所は数カ所くらいだと思います。栄区のなかで展望に適した場所として、特におすすめの場所を選ぶとすれば、丹海山遊歩道の入口に当たる丹海山無線中継所前、みどりヶ丘住宅団地の裏山の遊歩道、上郷市民の森の展望台です。

丹海山無線中継所からは西に富士箱根・丹沢山地の山脈、東に横浜の中心市街地の高層ビルが一望できる絶好の場所です。みどりヶ丘住宅裏山からの展望は丹沢山地の東側から奥多摩方角の展望が良いように思えます。

上郷市民の森の頂上広場からの展望の特色は、前述の二カ所から富士山を望む場合、横須賀からの送電線・鉄塔が視界を邪魔するという欠点がありますが、上郷市民の森の展望台では前面に遮るものがなくカメラマンにとっては人気の撮影ポイントになっています。また、富士山頂上の剣が峰と展望広場の位置が同緯度上にあるという特色もあります。

日没を上郷市民の森から見ると、現在太陽は箱根の南の方に沈んでいます。お彼岸の頃には富士山の頂上に達します。

次号では富士山展望のパノラマとダイヤモンド富士を中心に取り上げます。

（谷深）
<http://homepage3.nifty.com/morinokai/> 参照

万両・千両・百両・十両・一両

お正月には、どこのお宅でも松飾や床飾りを行う植物として、松・竹・梅を基本として飾ります。「歳寒の三友」と呼ばれ寒さに強い植物として昔から飾られてきました。その植物の引き立て役として真冬に真赤な実の付く植物として万両・千両を添えて飾るのが一般的ですが、百両・十両・一両の植物があるのではないかと調べてみました。

百両は「カラタチバナ」のことで千両の実を一回り大きくした感じで大変華やかな植物です。この近くでは箱根の乙女峠の稜線で見ることが出来ます。

十両は「ヤブコウジ」のことで正月の初詣などで夜店で寄せ植えで売られているのを見かけます。近隣の森でも日陰などで普通にみる事が出来ます。

一両は「アリドウシ」のことで関東より以西に多く関西では床飾りに使用されています。高さ50cm前後の常緑小低木で、小枝に1から2cmの鋭いとげがあり果実は赤く熟し、翌年の花の時期までついている。

水・人・子（ミジンコ）